



国立国会図書館 凸凹話 208-794



ガラス使用



新 戊午

京傳子作

話 下

東海道五十三驛  
 人間一生五十年



あつきのあひだのぞり

あつきのあひだのぞり

凸凹話





208-794

特別

一日書肆可某余が草菴小まきり。稗史の編述を  
 乞ふ。此時猛然として一陳の風起りて書案乃  
 上の書物と吹轉して本朝文粹十の巻の二張小  
 高積善が詩序あり其發語小曰  
 夫形者百年之旅語也名者萬代の  
 嘉賓也  
 執慮る言語最も確言といふを西是此稗史を  
 編る發端めして此稗史の旨趣都て此石小本はくと云

寛政十戊午壬子春

京傳子題



凸凹話



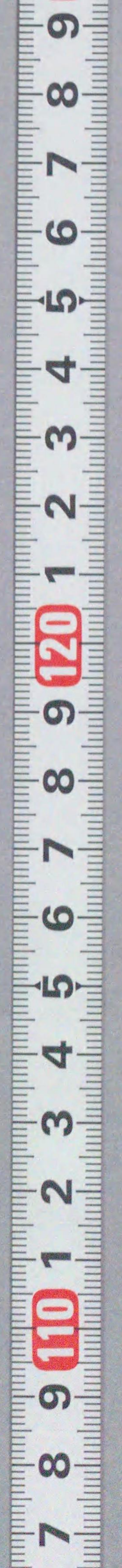
























おしりころの  
おしりころの  
おしりころの

わが  
わが  
わが

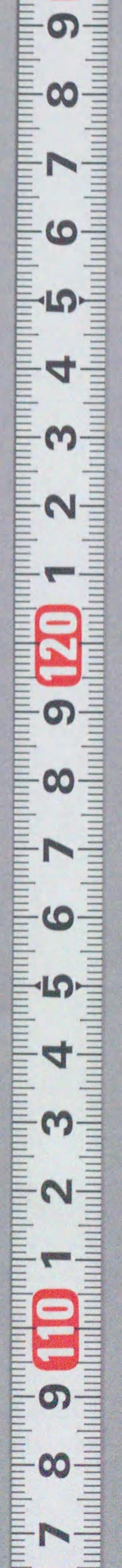
おしりころの  
おしりころの  
おしりころの

おしりころの  
おしりころの  
おしりころの



おしりころの  
おしりころの  
おしりころの

おしりころの  
おしりころの  
おしりころの







7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9

































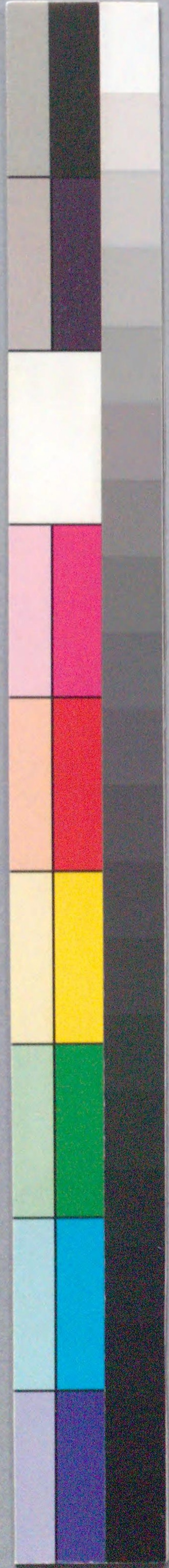


208  
794

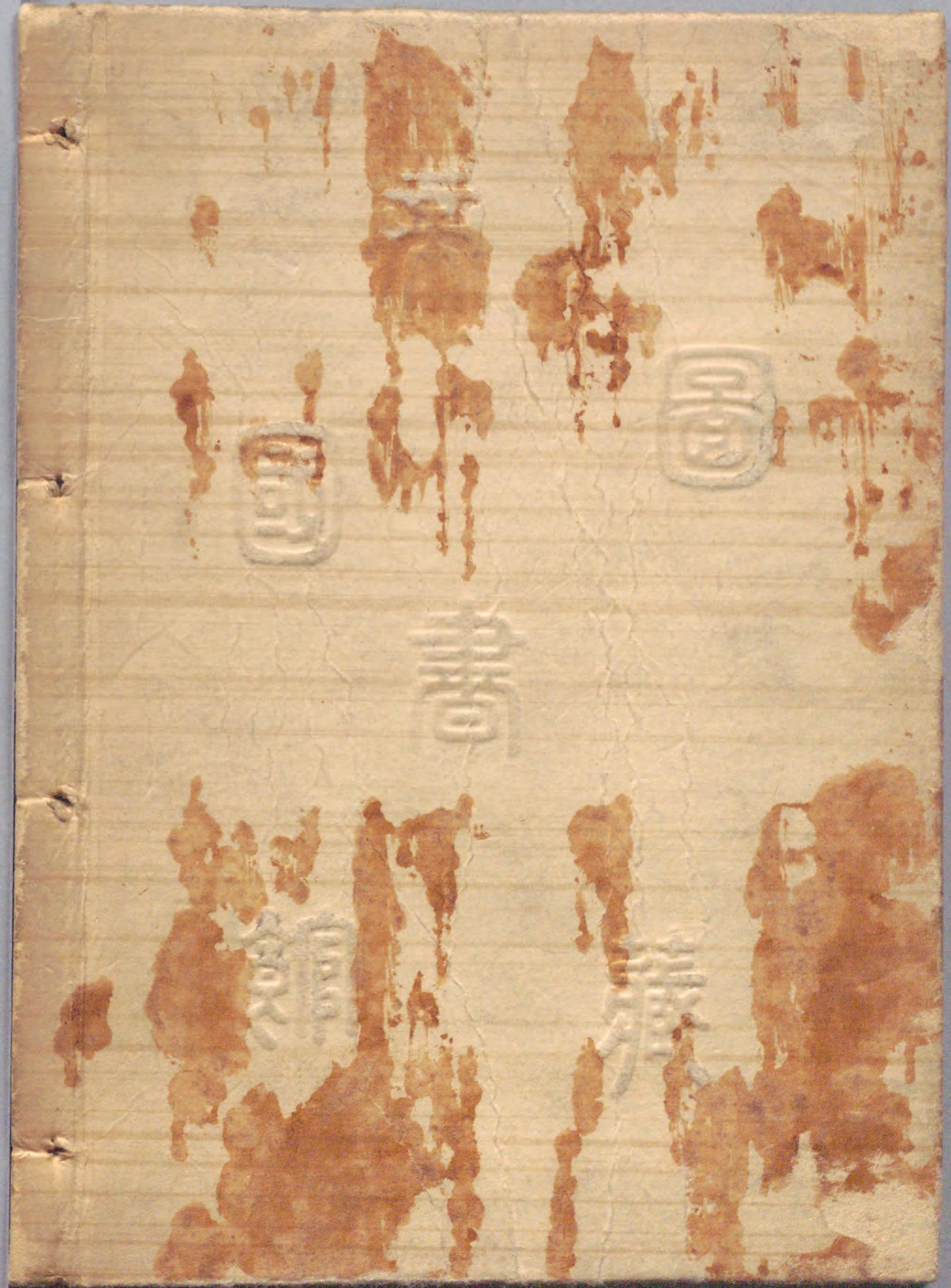
Handwritten text in Arabic script, likely a title or reference number, located on the right edge of the book cover.







国立国会図書館 凸凹話 208-794



ガラス使用

